2024年10月01日発行
三菱ガス化学株式会社

環境データ

生産に係わるインプット・アウトプット ｜ 原材料・生産量 ｜ 気候変動対応への基本的な考え方 ｜
温室効果ガス排出 ｜ 資源利用に関する基本的な考え方 ｜ エネルギー使用 ｜ 水資源の利用 ｜ 資源循環 ｜
PRTR法対象物質 ｜ 汚染防止 ｜ 環境会計 ｜ 環境事故・環境法令違反 ｜ 外部認証の取得状況

生産に係わるインプット・アウトプット（単体）

インプット	
原材料	59 万トン
エネルギー（原油換算）	531ML
取水	28 Mm^3

アウトプット	
生産量	74 万トン
GHG排出	959万t-CO_2換算
排水	25 Mm^3
廃棄物外部排出	14 千トン
再資源化	23 千トン

原材料・生産量（単体）

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
原材料	千トン	704	770	693	587
生産量	千トン	1,144	1,011	739	742

気候変動対応への基本的な考え方

1. Scope1/2＊1のGHG排出の削減目標を策定し、計画・実行・モニタリング・見直しを通じて着実に削減する。
2. Scope3＊2のGHG排出を、評価・管理・モニタリングし、積極的に公開するとともに、サプライチェーンと協働した取り組みを推進する。
3. 2050年の脱炭素社会に向けて、原料の炭素循環やエネルギー効率の向上・エネルギー転換を進める。
4. プロセスの技術革新やライフサイクル全体でのGHG排出量に配慮した設計・開発により、事業を通じたエネルギー・気候変動問題解決に貢献する。
5. 気候変動イニシアティブ＊3を通じた情報開示を推進する。

＊1　Scope1/2：Scope1は自社が直接排出したGHG排出量、Scope2は他社から購入したエネルギー（主に電力）の使用に伴う間接的GHG排出量。
＊2　Scope3：原料調達・製造・物流・販売・廃棄などの組織活動に伴いサプライチェーン上で排出される間接的GHG排出量。
＊3　三菱ガス化学は、気候変動への対応を推進するために自主的に発足したさまざまな協働活動（気候変動イニシアティブ）に参加しています。

気候変動緩和への基本的な考え方

当社グループは、気候変動問題への対応は国境を超えたグローバルな共通課題であり、国内外各社が一体となって取り組む必要があるとの認識を持っています。グローバルな脱炭素への要請の高まりを受け、2022年3月に「三菱ガス化学グループのGHG排出量を2050年にカーボンニュートラルを達成する」というグループ目標を設定しました。この目標達成に向け、原燃料の低炭素化、省エネルギーの推進、再生可能エネルギーへの転換、生産設備の超安定化運転、高効率設備による各種原単位改善、新技術の導入によるスマート化などに積極的に取り組み、脱炭素社会の実現に努めていきます。

また、当社グループは国内外各社において気候変動やエネルギー使用量削減などに関する法律や規制（国内の場合は「地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）」や「エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）」など）や政策等を支持し、これらへの対応を適切に行っています。Scope1/2＊[1]のGHG排出の削減目標を策定し、計画・実行・モニタリング・見直しを通じて着実に削減する。

業界団体・イニシアティブとのかかわり

当社は、2022年3月に経済産業省が公表したGX（グリーントランスフォーメーション）リーグ基本構想への賛同を表明し、2023年4月よりGXリーグに参画しています。

GXリーグは、カーボンニュートラルへの移行に向けた挑戦を果敢に行い、リーダシップを発揮する企業群が、GXをけん引する枠組みです。

企業自らが削減目標・進捗を開示する自主性が求められ、それによって目標達成に向けた取り組みが求められます。

当社は、気候変動戦略においてGXリーグの立場と一貫性を持たせるため、GXリーグ主催の各種会議に参画することで情報収集し、それらの内容を社内に共有しています。さらに、その内容について、当社の立場・考えに沿っているかを確認しており、また齟齬がある場合は、生産技術部・経営企画部・事業管理部・サステナビリティ推進室で構成されるCN専門委員会で協議・調整を図ります。このプロセスを通じて、当社の気候変動戦略とGXリーグとの活動を一致させています。

温室効果ガス排出

Scope1+2（連結）

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		連結	連結	連結	連結
エネルギー起源CO_2	千t-CO_2換算	1,283	1,379	1,219	1,289
非エネルギー起源CO_2	千t-CO_2換算	75	101	91	90
CH_4	千t-CO_2換算	4	3	14	10
N_2O	千t-CO_2換算	1	0	1	5
HFCs	千t-CO_2換算	1	3	1	3
PFCs	千t-CO_2換算	0	0	0	0
SF_6	千t-CO_2換算	0	0	0	0
NF_3	千t-CO_2換算	0	0	0	0
合計	千t-CO_2換算	1,363	1,487	1,326	1,396
Scope1	千t-CO_2換算	653	770	743	715
Scope2（マーケットベース）	千t-CO_2換算	709	717	583	682
売上高当たりの排出原単位	t-CO_2換算/百万円	2.3	2.1	1.7	1.7

※1 四捨五入の関係で各項目の和と合計が一致しない場合があります。
※2 グループ企業の異動および算定基準の見直しにより、過年度の値を見直しました。
※3 上表の報告バウンダリーについては、P22-23に記載しています。あわせてご参照ください。
※4 過去データを見直し、数値を修正しています。

Scope３（連結）

カテゴリー	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		連結	連結	連結	連結
購入した製品・サービス	千t-CO_2換算	6,110	7,780	5,856	5,325
資本財	千t-CO_2換算	109	161	179	230
Scope1,2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	千t-CO_2換算	235	266	275	280
輸送・配送（上流）	千t-CO_2換算	642	703	301	337
事業から出る廃棄物	千t-CO_2換算	6	5	9	8
出張	千t-CO_2換算	1	1	1	1
雇用者の通勤	千t-CO_2換算	1	1	1	1
リース資産（上流）	千t-CO_2換算	7	7	3	3
輸送・配送（下流）	千t-CO_2換算	212	150	71	154
販売した製品の加工	千t-CO_2換算	—	—	—	—
販売した製品の使用	千t-CO_2換算	—	75	419	277
販売した製品の廃棄	千t-CO_2換算	2,530	3,841	2,963	2,647
リース資産（下流）	千t-CO_2換算	26	1	2	2
フランチャイズ	千t-CO_2換算	0	0	0	0
合計	千t-CO_2換算	9,172	11,358	9,374	9,265

※1 四捨五入の関係で各項目の和と合計が一致しない場合があります。
※2 グループ企業の異動および算定基準の見直しにより、過年度の値を見直しました。
※3 上表の報告バウンダリーについては、P22-23に記載しています。あわせてご参照ください。
※4 過去データを見直し、数値を修正しています。

GHG排出量/売上高原単位（単体）

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
GHG排出量(単体)	千t-CO_2換算	780	812	725	696
GHG排出量の売上高原単位	千t-CO2換算/百万円	0.0023	0.0019	0.0016	0.0017

運輸部門におけるGHG排出量（単体）

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
鉄道	千t-CO_2換算	0.57	0.60	0.62	0.53
船舶	千t-CO_2換算	9.9	11.5	10.4	9.3
トラック	千t-CO_2換算	16.2	16.9	15.1	12.8

資源利用に関する基本的な考え方

三菱ガス化学グループは、国内外の生産拠点における燃料・資源（製品原料を含む）の効率的な活用と、革新的なプロセス技術の創出を推進し、GHG排出量の削減に寄与します。

資源利用について

MGCグループは環境循環型プラットフォーム「Carbopath™」の構築を推進しており、長年培ってきた触媒開発、合成技術を活かし、大気へ排出されるCO2や廃プラスチック等をメタノールに変換し、化学品や燃料・発電用途にリサイクルする事業化検討を開始しました。企業・自治体との協業も加速させ、サーキュラーエコノミーによる社会変革を目指します。

エネルギー使用

エネルギー使用量（系統電力・再生可能エネルギー・自家発電エネルギー割合）　（単体）

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
エネルギー総使用量	MWh	3,200,968	3,475,701	3,176,431	3,006,312
系統電力比率	—	9.7%	9.4%	9.6%	8.4%
再エネ比率	—	0.0%	0.0%	0.6%	1.0%
自家発電エネルギー総量	MWh	243,556	260,992	243,480	236,937

※1 SASB Indexの算出基準に基づいて算出
※2 過去データを見直し、数値を修正しています。

エネルギー使用量（系統電力・再生可能エネルギー・自家発電エネルギー割合）　（連結）

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
エネルギー総使用量	MWh	—	—	5,060,414	5,108,119
系統電力比率	—	—	—	17.5%	18.2%
再エネ比率	—	—	—	1.2%	1.5%
自家発電エネルギー総量	MWh	—	—	264,238	254,802

※上表の報告バウンダリーについては、P22-23に記載しています。あわせてご参照ください。

エネルギー使用量（再生可能・非再生可能エネルギー割合）　（単体）

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
購入・消費した非再生可能燃料（A） （原子力、石炭、石油、天然ガスなど）	MWh	2,607,820	2,820,676	2,592,443	2,488,961
購入した非再生可能電力（B）	MWh-買電量	309,315	331,496	303,900	253,414
購入した蒸気、熱、冷却、 その他非再生可能エネルギー（C）	MWh	345,762	392,187	342,541	331,193
購入または創出した再生可能エネルギー（D） （風力、太陽光、バイオマス、水力、地熱など）	MWh	10	12	18,990	31,483
販売した非再生可能エネルギー（E） （電力・加熱・冷却）	MWh	61,928	68,658	62,452	67,256
非再生可能エネルギー消費合計 （A+B+C-E）	MWh	3,200,968	3,475,701	3,176,431	3,006,312

※過去データを見直し、数値を修正しています。

エネルギー使用量（再生可能・非再生可能エネルギー割合）　（連結）

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
購入・消費した非再生可能燃料（A） （原子力、石炭、石油、天然ガスなど）	MWh	—	—	3,350,502	3,197,249
購入した非再生可能電力（B）	MWh-買電量	—	—	887,187	930,644
購入した蒸気、熱、冷却、 その他非再生可能エネルギー（C）	MWh	—	—	885,177	1,047,482
購入または創出した再生可能エネルギー（D） （風力、太陽光、バイオマス、水力、地熱など）	MWh	—	—	60,824	79,876
販売した非再生可能エネルギー（E） （電力・加熱・冷却）	MWh	—	—	62,452	67,256
非再生可能エネルギー消費合計 （A+B+C-E）	MWh	—	—	5,060,414	5,108,119

※1　上表の報告バウンダリーについては、P22-23に記載しています。あわせてご参照ください。
※2　過去データを見直し、数値を修正しています。

エネルギー使用量（原油換算）　（単体）

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
製造・研究および事業部門	ML-原油換算	359	380	347	322
物流部門	ML-原油換算	10	10	10	9
原単位(物流部門)	KL/百万トンキロ	20	20	21	20

※過去データを見直し、数値を修正しています。

エネルギー使用量（原油換算）　（連結）

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
製造・研究および事業部門	ML-原油換算	—	—	633	640

※上表の報告バウンダリーについては、P22-23に記載しています。あわせてご参照ください。

エネルギー使用量/売上高原単位　（単体）

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
エネルギー使用量	ML-原油換算	359	380	347	322
エネルギー使用量の売上高原単位	ML-原油換算/百万円	0.00104	0.00089	0.00079	0.00080

※過去データを見直し、数値を修正しています。

水資源（単体）

水資源に関わるリスク管理

三菱ガス化学は、化学品の原料として、また化学品製造時の加熱用スチームや冷却水、製品の精製、容器の洗浄などの用途で多くの水を使用しています。このように化学品製造に不可欠な水資源を持続的に利用していくために、三菱ガス化学は、さまざまなリスク管理を行っています。具体的には、取水量、排水量、使用量、リサイクル量を計測することで、水の使用実態を把握し、効率的な利用を進めています。取水するにあたっては、法令や自治体との協定などに基づき許可された取水量を遵守しています。また、河川や海域などの公共水域に放流する排水は、含まれている水質汚濁物質を特定して排水処理装置で処理し、基準を満たした上で放流しています。これら水に関する環境負荷データの詳細は下記をご参照ください。

さらに、全従業員が、適正に機能し安全に管理された衛生施設（wash service）を利用できるよう、全事業所で衛生的な水の使用環境を整備しています。

事業継続の観点からは、水に関するリスクとして渇水と生産設備の浸水による生産停止を特定しており、これらリスクに対するBCPを策定し、対策を実施しています。なお、各工場が立地する地域においては、水ストレスによる生産活動への影響および水資源の使用に関連する利害関係の対立は顕在化していません。

一方、三菱ガス化学が展開する空調設備や冷却装置の冷却水の課題を解決するビジネスは、機会であると捉えています。感染症の原因となるレジオネラ属菌を殺菌する効果を持ち、冷却水の水質を健全に保つ水処理剤や、関係会社ダイヤアクアソリューションズによる総合的な水処理システムサービスなど、水課題に対するソリューションを提供しています。

今後は、水資源の保全をさらに進めるべく、水の有効利用に関する定性的・定量的な目標の設定を検討していきます。

水リサイクルへの取組

化学工業においては、冷却水として使用する水の比率が大きく、通常はクーリングタワーを経由して水の温度を下げて循環使用しています。もしこの冷却水を循環せずにワンパスで使用するとなると、ポンプの電気使用量の削減の可能性がある一方で、取水量・排水量が100倍も大きくなると考えられます。そのため水の再利用率を向上させることを目標に設定して、取水量の削減に取り組んでいます。

効率的な水利用

当社グループは、取水量、放流水量やリサイクル量をモニタリングして水消費量（取水量-排水量）の把握を行い、効率的な水利用に努めています。

特に水を多く使用する生産拠点では、循環式冷却水系の利用など水のリサイクルを積極的に行うことで取水量の効率的な利用・削減に努めています。

水ストレス地域について

TNFDで推奨するENCOREを使用して、MGCグループ拠点のスクリーニングを行い、センシティブロケーションの結果として、水リスクが高い地域(指標４)に該当する拠点を抽出しました。マテリアルロケーションの重要度も考慮して、優先地域を特定し、リスク削減の対応や地域との対話を進めていきます。

水資源の利用（単体）

指標		単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
取水量	上水道水（第三者水源）	千m^3	1,521	1,613	1,543	1,476
	表流水（川・湖などの淡水）	千m^3	30,980	33,296	30,016	26,769
	地下水	千m^3	392	387	395	232
	合計	千m^3	32,893	35,296	31,954	28,477
排水量	下水道	千m^3	2,035	2,233	2,038	1,931
	海域	千m^3	8,540	9,455	9,252	8,351
	河川・湖沼（淡水域）	千m^3	18,264	19,585	16,686	14,847
	その他	千m^3	0	0	0	0
	合計	千m^3	28,839	31,274	27,976	25,130
水消費量＊		千m^3	4,054	4,022	3,978	3,347
リサイクルした水の量		千m^3	422,047	511,862	478,178	397,831
リサイクルした水の率		%	93	94	94	93

＊取水量－排水量

取水量/売上高原単位

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
取水量	千m^3	33,087	35,296	31,954	28,477
取水量の売上高原単位	千m^3/百万円	0.096	0.082	0.073	0.071

※過去データを見直し、数値を修正しています。

水消費量/売上高原単位

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
水消費量	千m^3	4,054	4,022	3,978	3,347
水消費量の売上高原単位	千m^3/百万円	0.0118	0.0094	0.0091	0.0083

※過去データを見直し、数値を修正しています。

水リサイクル率達成状況

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
水リサイクル率	%	93	94	94	93
目標値：95%以上の達成度合い	―	×	×	×	×

資源循環（単体）

産業廃棄物

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
産業廃棄物発生量	トン	79,115	84,046	79,130	85,486
産業廃棄物外部排出量	トン	13,771	11,277	10,927	14,363
再資源化量（排出後再資源化を含む）	トン	24,913	26,131	21,891	23,219
最終処分量	トン	388	231	199	113
リサイクル率	%	32	31	28	27

※過去データを見直し、数値を修正しています。

有害・特管産業廃棄物

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
有害・特管産廃発生量	トン	—	—	—	63,365
有害・特管産廃外部排出量	トン	—	—	—	9,108

ゼロエミッション率達成状況（単体）

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
最終処分量／産業廃棄物発生量	%	0.49	0.27	0.25	0.13
目標：0.3%以下の達成度合い	—	×	○	○	○

PRTR制度対象物質（単体）

PRTR制度対象届出物質数

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
PRTR法対象届出物質数	物質	55	54	53	52

PRTR 制度対象物質排出量

指標		単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
PRTR法対象物質排出量	大気	トン	266	239	328	198
	水域	トン	11	11	10	10
	土壌	トン	0	0	0	25
	合計＊	トン	277	250	338	233

＊四捨五入の関係で、各項目の和と合計が一致しない場合があります。

PRTR制度対象届出物質で排出量の多い物質

政令指定番号	物質名	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	トン	152	111	206	—
691	トリメチルベンゼン	トン	—	—	—	97
186	ジクロロメタン	トン	77	68	56	40
213	N,N－ジメチルアセトアミド	トン	0	0	0	27
65	エピクロロヒドリン	トン	1	1	1	15
80	キシレン	トン	10	28	32	12
300	トルエン	トン	12	13	18	12

汚染防止（単体）

大気排出

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
揮発性有機化合物（VOC）	トン	338	298	379	247
SOｘ	トン	64	30	36	59
NOｘ	トン	508	368	407	398
ばいじん	トン	31	8	12	8

水域排出

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
BOD	トン	47	38	25	21
COD	トン	121	137	136	95
酸素要求量合計（BOD+COD）	トン	169	175	161	116
全窒素	トン	193	309	239	196
全リン	トン	51	56	49	50

環境会計（単体）

環境会計

分類			単位	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
				投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
事業エリア内コスト	公害防止コスト	大気汚染防止	百万円	95	878	72	859	46	923	16	554
		水質汚濁防止	百万円	178	1,561	144	1,667	62	1,976	109	1,293
		土壌・騒音対策等	百万円	354	0	19	3	10	0	1	47
	地球環境保全		百万円	192	1,872	499	2,173	632	1,818	263	1,433
	資源循環		百万円	6	1,143	0	819	28	1,088	14	764
上・下流			百万円	0	40	4	112	9	0	14	6
管理活動			百万円	41	547	1	1,391	6	1,496	1	399
研究開発			百万円	442	2,748	1,189	2,826	734	4,170	1,187	28
社会活動			百万円	0	7	0	5	0	4	0	16
環境損傷			百万円	0	71	0	75	0	48	0	58
合計＊			百万円	1,308	8,866	1,929	9,929	1,527	11,522	1,604	4,597

＊四捨五入の関係で、各項目の和と合計が一致しない場合があります。

環境保全対策に伴う経済効果

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
収益	百万円	48	8	61	22
費用節減	百万円	111	74	242	225

水関連の支出額

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
水関連の投資額（CAPEX）	百万円	178	144	62	109
水関連の費用額（OPEX）	百万円	1,561	1,667	1,976	1,293

生物多様性保全の支出額

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
生物多様性保全の投資額（CAPEX）	百万円	0	0	0	0
生物多様性保全の費用額（OPEX）	百万円	108	85	91	88

環境事故・環境法令違反（単体）

指標	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
環境関連法令違反の有無	件数	1	2	0	1
環境問題を引き起こす可能性のある（あった）事故・汚染の有無	件数	1	1	0	1
環境問題に関する苦情の有無	件数	0	0	0	0
環境関係の罰金・違約金の総額	千円	0	0	0	0

報告範囲について

三菱ガス化学グループ　環境データ、Scope1+2、3データ、エネルギー集計範囲

日本国内

会社名	Scope1+2,3	エネルギー
株式会社JSP	●	●
株式会社日本ファインケム	●	●
株式会社東邦アーステック	●	●
日本ユピカ株式会社	●	●
フドー株式会社	●	●
MGCターミナル株式会社	●	●
MGCアドバンス株式会社	●	●
MGCウッドケム株式会社	●	●
ポリオールアジア		
MGCエネルギー株式会社		
共同過酸化水素株式会社	●	●
MGCフィルシート株式会社	●	●
MGCエレクトロテクノ株式会社	●	●
米沢ダイヤエレクトロニクス株式会社	●	●
MGCエージレス株式会社	●	●
三菱エンジニアリングプラスチックス株式会社		
グローバルポリアセタール株式会社		
永和化成工業株式会社	●	●
東洋化学株式会社	●	●
三菱ガス化学トレーディング株式会社		
菱和エンタープライズ株式会社		

海外

会社名	Scope1+2,3	エネルギー
株式会社JSP	●	●
三永純化株式会社	●	●
韓国ポリアセタール	●	●
巨菱精密化学股份有限公司	●	●
三菱瓦斯化学工程塑料（上海）有限公司	●	●
泰興菱蘇機能新材料有限公司	●	●
MGC PURE CHEMICALS SINGAPORE PTE. LTD.	●	●
MITSUBISHI GAS CHEMICAL SINGAPORE PTE. LTD.		
PT PEROKSIDA INDONESIA PRATAMA	●	●
THAI POLYACETAL CO., LTD	●	●
THAI POLYCARBONATE CO., LTD.	●	●
AGELESS (THAILAND) CO., LTD.	●	●
MGC ELECTROTECHNO (THAILAND) CO., LTD	●	●
MGC ADVANCED POLYMERS, INC.	●	●
MGC PURE CHEMICALS AMERICA, INC	●	●
MITSUBISHI GAS CHEMICAL AMERICA, INC		
MGC Specialty Chemicals Netherlands B.V.		

外部認証の取得状況

外部認証の取得状況　2024年03月末時点

日本国内

会社名	事業所	ISO 14001	ISO 45001	ISO 9001
三菱ガス化学	新潟工場	●		●
	水島工場	●		●
	四日市工場	●		●
	鹿島工場	●		●
	山北工場	●		●
株式会社日本ファインケム	坂出工場	●		●
	新潟工場	●		●
	平塚事業所	●		●
株式会社東邦アーステック	本社・黒埼事業所	▲		●
	建設事業本部	●		●
MGCウッドケム株式会社	平塚工場			
	清水工場			
	水島工場			
日本ユピカ株式会社	湘南工場			●
	美祢工場	●		●
フドー株式会社	富士宮工場	●		●
	平塚工場	●		●
	蒲郡工場			●
	東海事業所			●
共同過酸化水素株式会社	本社工場			
MGCフィルシート株式会社	所沢工場			●
	大阪工場			●
	白河工場			●
MGCエレクトロテクノ株式会社	新白河工場	●		●
米沢ダイヤエレクトロニクス株式会社	本社工場	●		●
MGCエージレス株式会社	白河事業所			●
永和化成工業株式会社	衣浦工場			●
	宇治田原工場			●
東洋化学株式会社	本社工場	●		●
	ミタケ工場	●		●
	水島工場	●		●
鹿島ポリマー	本社工場	●		●

▲：EA21　環境省が定める環境マネジメントシステム

アジア

会社名	事業所	ISO 14001	ISO 45001	ISO 9001
■韓国				
三永純化株式会社	天安工場	●	●	●
	蔚山工場	●	●	●
KOREA POLYACETAL.CO., LTD.	Wonju工場			●
■台湾				
巨菱精密化学股份有限公司	本社工場	●	●	●
■中国				
三菱瓦斯化学工程塑料（上海）有限公司	本社工場	●		●
泰興菱蘇機能新材料有限公司	本社工場			
■シンガポール				
MGC PURE CHEMICALS SINGAPORE PTE. LTD.	本社工場	●	●	●
■インドネシア				
PT PEROKSIDA INDONESIA PRATAMA	本社工場	●	●	●
■タイ				
THAI POLYACETAL CO., LTD	ラヨーン工場	●	●	●
THAI POLYCARBONATE CO., LTD.	ラヨーン工場	●	●	●
AGELESS (THAILAND) CO., LTD.	本社工場		●	●
MGC ELECTROTECHNO (THAILAND) CO., LTD	本社工場	●		●

米州

会社名	事業所	ISO 14001	ISO 45001	ISO 9001
MGC ADVANCED POLYMERS, INC.	本社工場	●		●
MGC PURE CHEMICALS AMERICA, INC	アリゾナ工場	●	●	●
	テキサス工場	●	●	●
	オレゴン工場	●	●	●

欧州

会社名	事業所	ISO 14001	ISO 45001	ISO 9001
MGC Specialty Chemicals Netherlands B.V.	本社工場			

※1 ISO14001認証は、製造拠点49カ所のうち、31カ所（63%）で取得
※2 ISO45001認証は、製造拠点49カ所のうち、11カ所（22%）で取得